

添付資料

1. 調査の概要

調査地域：大阪府高槻市・島本町周辺

○特徴 郊外型の駅かつバスのネットワークが発達した住宅地

○対象の駅 JR 西日本東海道本線の摂津富田駅、高槻駅、島本駅

阪急京都線の富田駅、高槻市駅、水無瀬駅

※最近エレベーター・エスカレーターが設置された駅…高槻駅（北口）、富田駅

今後エレベーター・エスカレーターが設置予定の駅…高槻駅（南口）、摂津富田駅、水無瀬駅

かなり以前にエレベーター・エスカレーターが設置された駅…高槻市駅

最近開業した（エレベーター・エスカレーターあり）駅…島本駅

調査内容：鉄道駅等のバリアフリー化による行動の変化を把握するため、下記の調査を実施した。

①居住者調査 [高齢者 1,376 人、子育て世代 713 人]

※アンケート対象者は、高齢者を 60 才以上とし、子育て世代を子どもを保育園（保育所）に預けている親とし、さらにベビーカーの利用を想定した質問とした

※駅から概ね 1 km 圏（徒歩圏）および JR 高槻駅へ乗り入れるバス路線沿い（バス利用圏）の居住者へのアンケート調査

②来訪者調査 [高齢者 177 人、子育て世代 142 人]

※JR 高槻駅での街頭ヒアリング調査

③商業者等調査 [7 団体]

※駅周辺の商業者等へのヒアリング調査



図 1 調査地域①

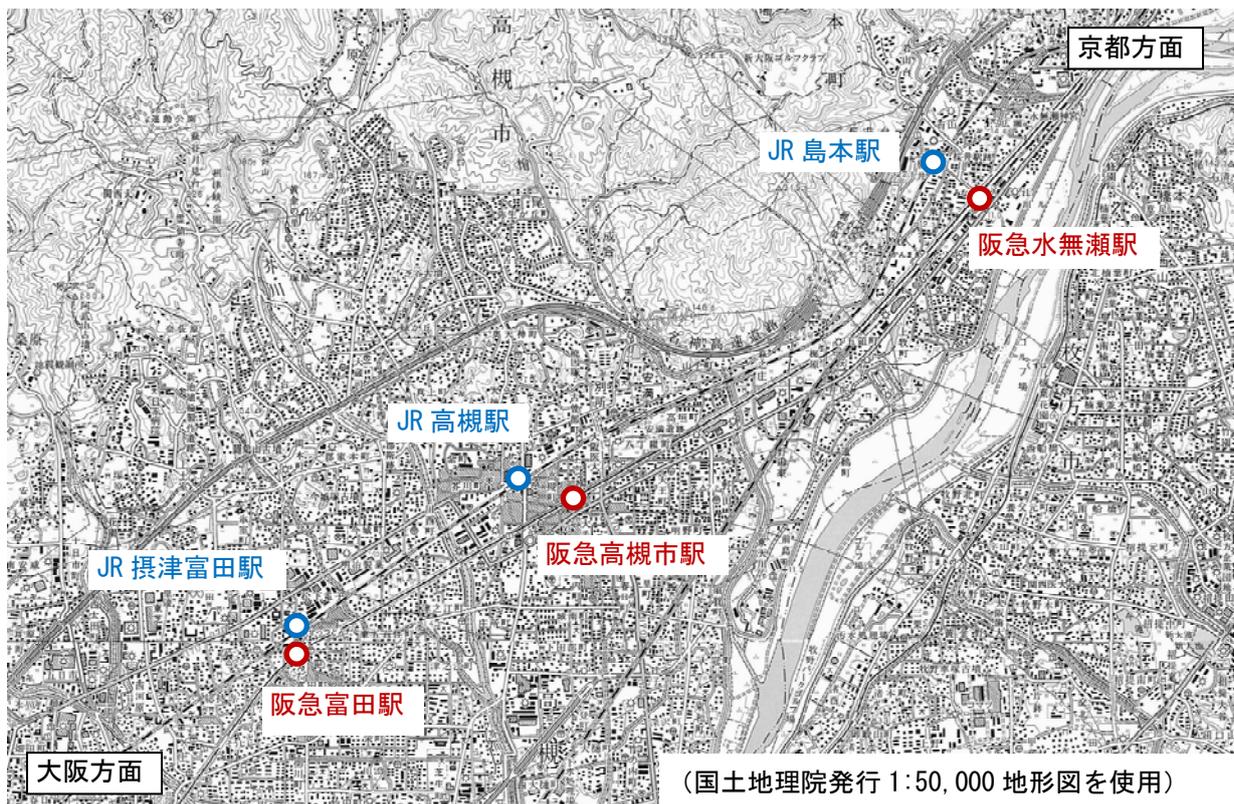


図 2 調査地域②

2. 調査の結果

①鉄道の利用促進効果

エレベーター・エスカレーターが設置された駅では、高齢者や子育て世代のうち鉄道の利用が増えた人が約3割いる。

高齢者では、「利用回数が増えた」が20%、「利用するようになった」が12%で、計32%。子育て世代では、「利用回数が増えた」が27%、「利用するようになった」が11%で、計38%。

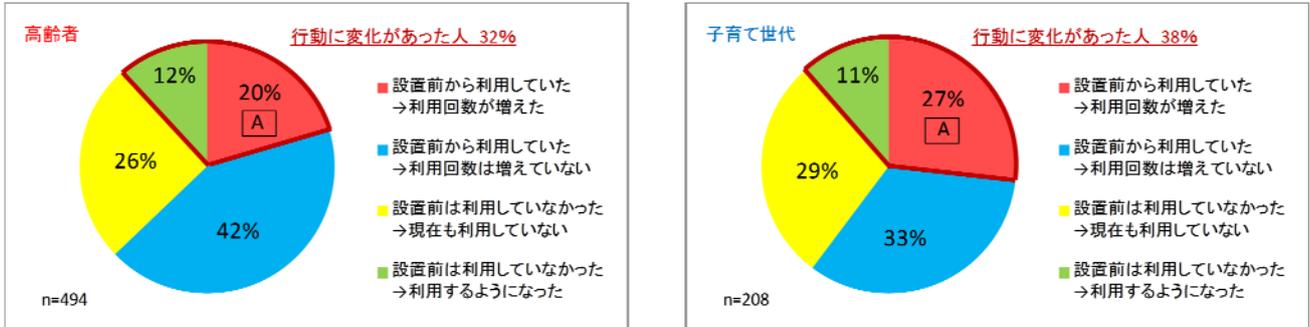


図3 鉄道の利用状況の変化

図3の「利用回数が増えた」人(A)に、エレベーター・エスカレーターの設置前後の鉄道の利用回数を聞いた。選択肢より鉄道の利用回数の平均を推計したところ、高齢者は設置前が4.1回/月、設置後が5.1回/月、子育て世代は設置前が4.4回/月、設置後が5.1回/月となり、月に1回程度増加したことになる。

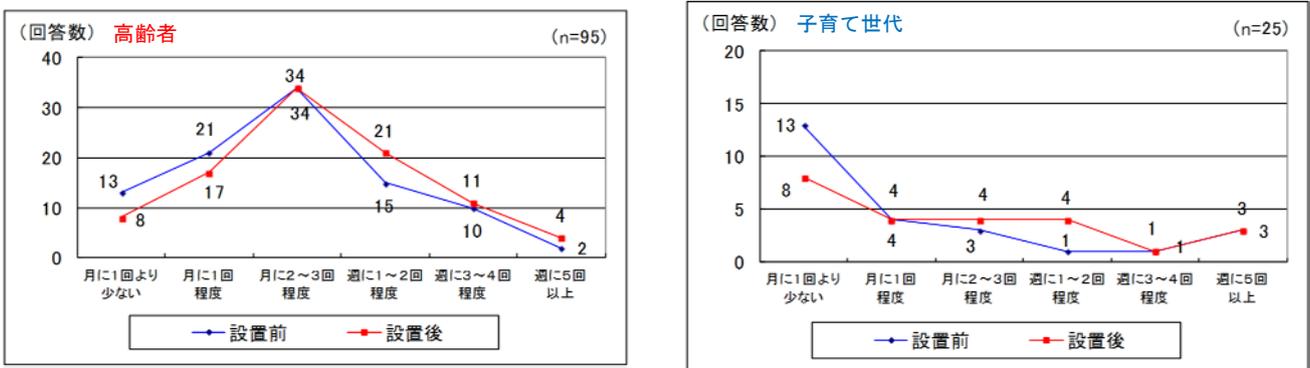


図4 鉄道の利用回数の変化

駅にエレベーターやエスカレーターが設置されれば、高齢者や子育て世代のうち鉄道の利用を増やす人が約4割いる。

今後の設置に対して、行動に変化がある(「利用回数が増える」・「利用するようになる」)人は、高齢者の43%、子育て世代の46%となり、エレベーターやエスカレーターへの期待度は高い。

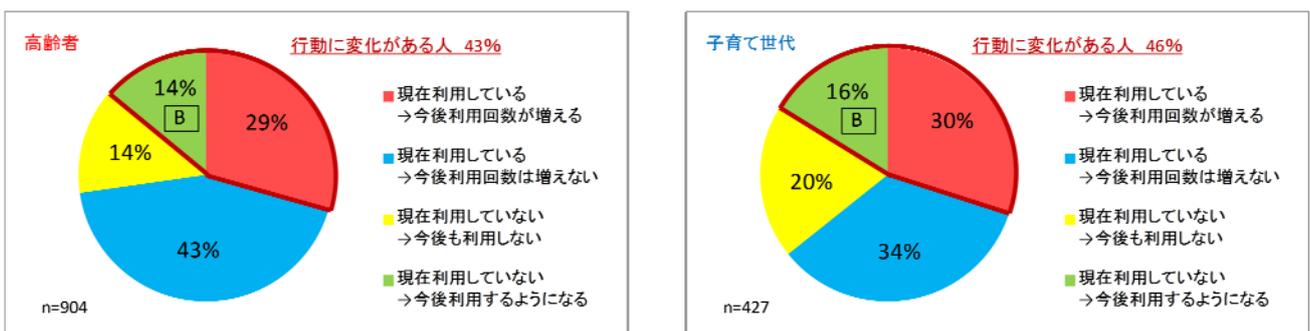


図5 今後の設置に対する鉄道の利用状況の変化

図5の行動に変化がある人に、その変化は外出する回数そのものが増えるのか、それとも他の駅や他の交通手段から転換するのかを聞いたところ、高齢者の55%、子育て世代の48%が、外出する回数そのものが増えるとしている。

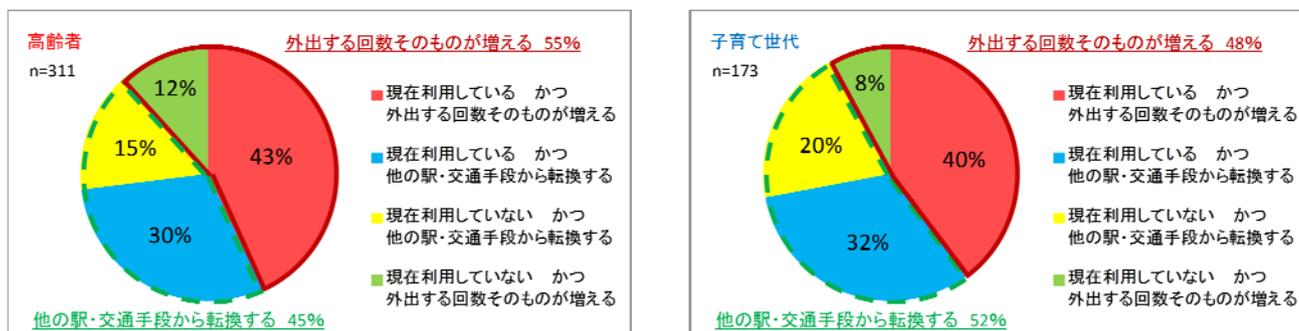


図6 外出機会の変化

図5の「今後利用するようになる」人（B）に、現在の交通手段を聞いたところ、高齢者の62%、子育て世代の49%が、他の駅からの鉄道利用で、残りが自家用車やタクシー等の他の交通手段となっている。

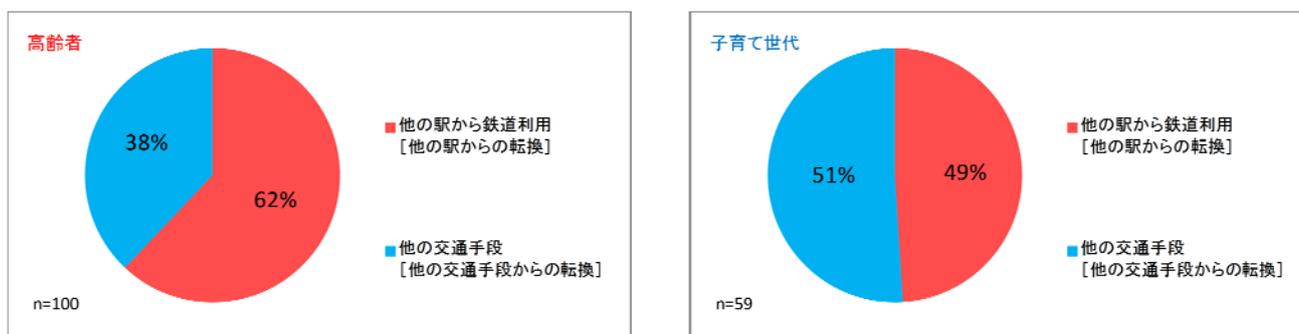


図7 対象駅から鉄道を利用する前の交通手段

②地域の活性化効果

エレベーターやエスカレーターが設置され、鉄道を利用した外出が増えることにより、沿線地域での消費行動が活性化する。

行動の変化を聞いたところ、大阪・京都といった大都市や、地域の商業拠点である JR 高槻駅周辺への買い物目的の鉄道利用が増えている。

試算では、JR 高槻駅（北口）のバリアフリー化により、約2億円／年の経済効果が推計される。

[試算方法]

沿線地域の消費行動の年間の経済効果（円）

$$= \text{JR 高槻駅利用者の1人あたり消費額}^{\ast 1} (\text{円}/\text{人} \cdot \text{回}) \\ \times \text{JR 高槻駅における鉄道を利用した外出機会の増加分}^{\ast 2} (\text{人} \cdot \text{回})$$

※1 来訪者調査より

※2 JR 高槻駅の定期外乗降客数（人）／2

× 高槻市の高齢者・子育て世代率（人口構成比から設定）（%）

× 鉄道を利用した外出機会の増加分（回） × 1.2

③行動特性

高齢者は、荷物の有無や健康状態により、エレベーター・エスカレーター・階段を使い分けている。

鉄道駅のエレベーターを利用する理由を聞いたところ、高齢者では、「階段やエスカレーターの利用が困難・危険だから（1～2割程度）」を選択した人は、エレベーターが必要不可欠であると考えられる。また、「楽だから（5割強）」を選択した人は、主にエスカレーターを利用していると考えられる。自由回答では、「重い荷物を持つての移動時にはエレベーターを利用する」、「健康増進のために階段を利用する」との記述があった。

子育て世代では、ベビーカー等を利用した移動の負担が大きく、階段やエスカレーター利用の困難さや危険回避のために、エレベーターが欠かせない移動手段となっている。

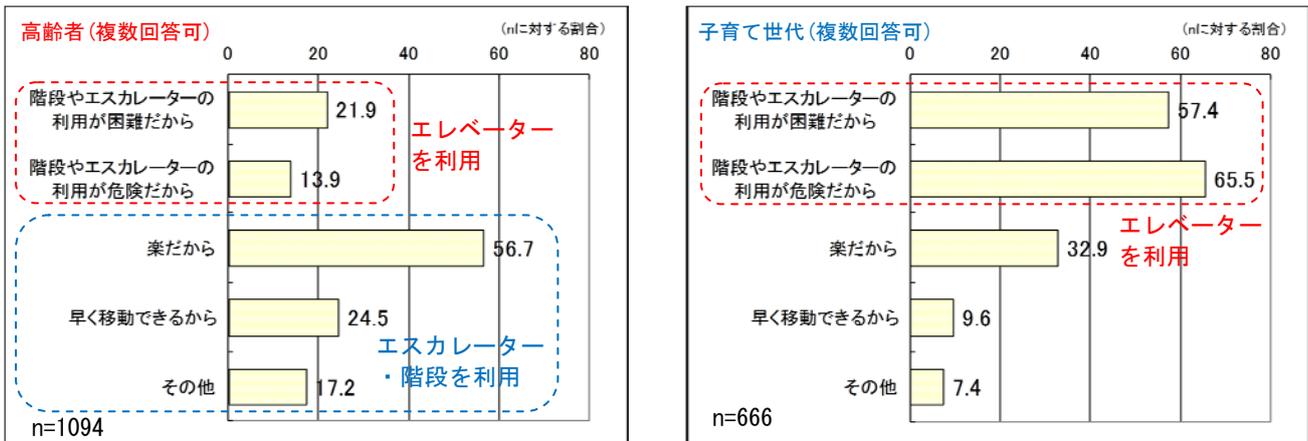


図8 鉄道駅のエレベーターを利用する理由

子育て世代は、エレベーターを重視している。

大阪（梅田）へ行くのに JR 島本駅を選択する理由を聞いたところ、高齢者では、自宅からの距離、時間と比べて重要度は劣るものの、エレベーターやエスカレーターも重要とされている。

子育て世代では、自宅からの距離に次いで、エレベーターが重要とされている。

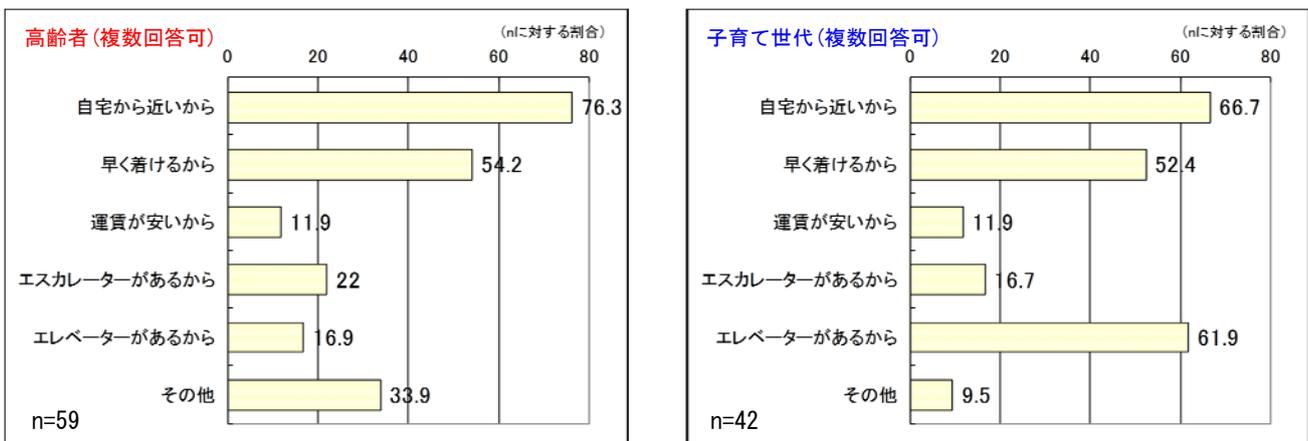


図9 大阪（梅田）へ行くのに JR 島本駅を選択する理由

高齢者のバリアフリー駅利用は、子育て世代に比べて、距離が影響する。

JR 島本駅を利用している人に、JR 島本駅のエレベーターやエスカレーターが利用できない場合には、駅の利用を回避するかどうかを聞いた。図 10 は、居住している町丁目別に、利用を回避する割合を色（緑色から赤色に近づくほど回避割合が高い）で示している。

高齢者では、駅から遠い居住者ほど利用を回避する傾向があることから、エレベーターやエスカレーターの設置により駅勢圏が拡大していることがわかる。

子育て世代では、駅からの距離に関係なく利用を回避する傾向があることから、駅からの距離に関わらず駅利用におけるエレベーターの重要度が高いことがわかる。

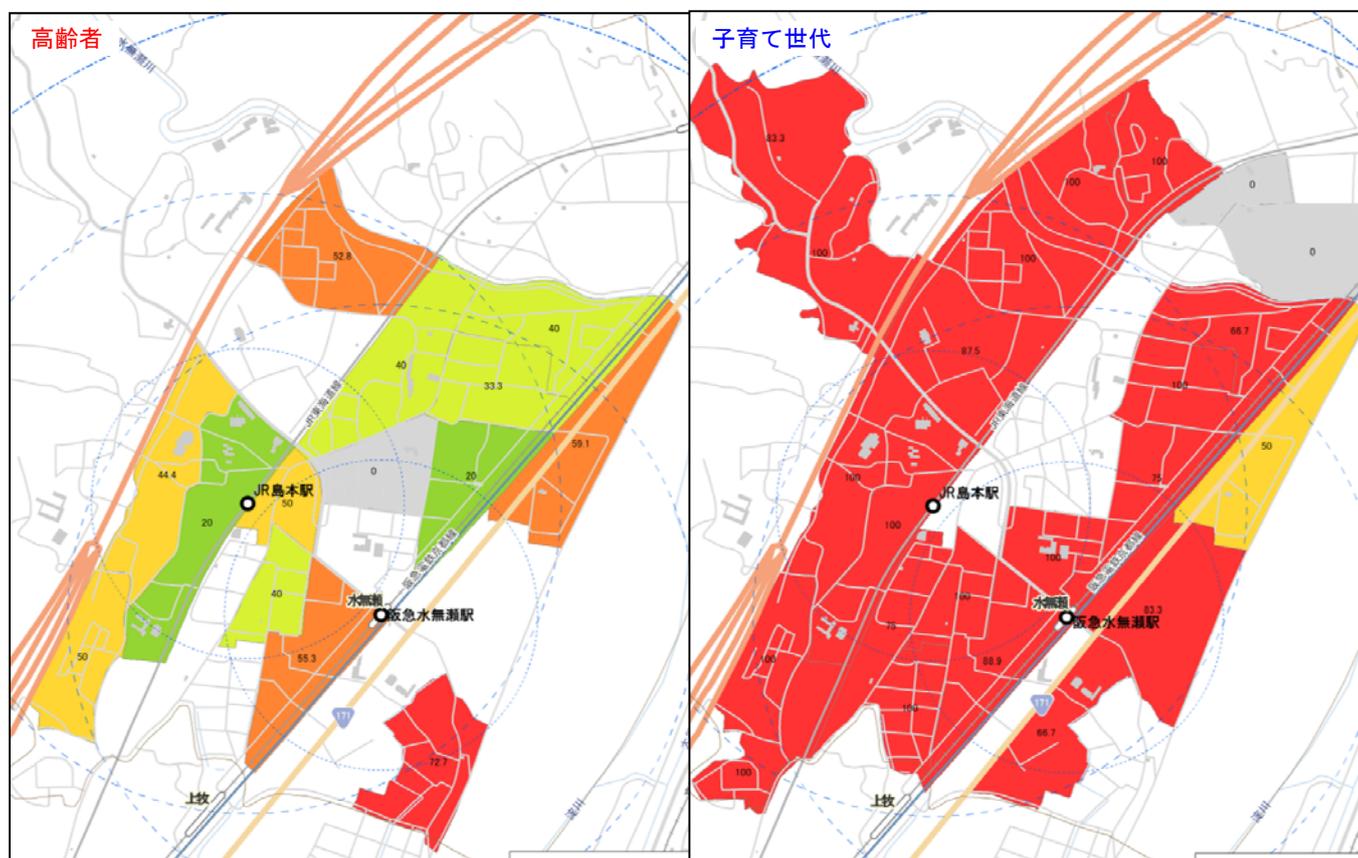
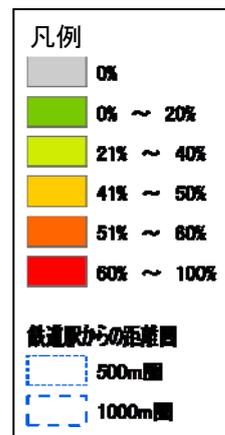


図 10 JR 島本駅のエレベーター・エスカレーターが利用できない場合の駅利用回避割合（町丁目別）

調査結果の全体版につきましては、当研究所にお問い合わせいただくか、当研究所のホームページ (<http://www.mlit.go.jp/pri/>) をご覧下さい。